

# 令和6年度 学校評価実施報告書

幼稚園名（翔鸞 幼稚園）

## 教育目標

夢中になって遊ぶことを通して 自分の思いを伝え合い  
人やものを大切にする子どもの育成

## 年度末の最終評価

自己評価	<p><b>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</b></p> <p>子どもたちの「ときめき」と「ひらめき」に着目しながら保育を展開していくことで、遊びがより深まり、探究心を育む保育を展開することができた。また、子どもたちの「ときめき」と「ひらめき」が生まれる保育はとても主体的で、対話的で深い学びにつながっていく姿も多く見られた。そして今年度も科学的な遊びに視点をあてて論文をまとめ、ソニー幼児教育支援プログラムに応募したところ、優秀園をいただくことができた生き物との出会いを通して、命を大切にしていくことを実感していく子どもたちの姿が見られた。次年度は、「ときめき」と「ひらめき」から育まれる子どもたちの資質・能力を丁寧にみとり、その要因を探っていきたいと考えている。</p>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <p>翔鸞幼稚園が、『今までずっと大切にしてきた保育』を、保護者だけではなく、地域の方や、未就園児の保護者の皆様にもご理解していただけるようになったと感じる。子どもたちは常に「何かをやらされる保育」ではなく、主体的に自ら考えて、試行錯誤しながら行動している姿が多く見られる。まさに「非認知能力」を育む保育であると感じる。その翔鸞幼稚園の保育の魅力が、次年度の入園者にも伝わったのではないかと考える。</p>

## 学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和6年10月25日	学校運営協議会理事
最終評価	令和7年2月27日	学校運営協議会理事

## （1）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

### 具体的な取組

- ・異年齢の子ども同士が夢中になって遊ぶ姿を通して、子ども達の「ときめく姿」や「ひらめく姿」に着目し、“ときめき”と“ひらめき”を繰り返しながら探究していく子ども達の姿を丁寧に見取り、明日の保育につながる教師の援助や環境構成について考えていく。全教員で週に一度、保育の振り返りをしながら次週の保育環境や援助について検討する日を設けていく。
- ・それぞれの学年の子ども達の遊びの様子を分析する際に、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を手掛かりにして、一人一人に対するねらいをもち、それを達成するために必要な環境づくりや援助をする。また、子どもの姿から教師の援助や環境構成を評価し、再び保育に返していく。

- ・研究保育や事例研修を通して園内研究を深め、保育を振り返りながら、教師の力量を高めていく。また、協議を行う際に、視点をもって協議を進められるようにシートを作成し、活用していく。
- ・保護者や関係機関と連携をとりながら、支援を必要とする子どもに対する支援の在り方を検討し、個々の子どもに対する適切な支援を共通理解の下で行い、園全体で継続的に育ちを見取っていく。
- ・幼稚園生活全般を通して、安心感・安定感や親しみをもって人と関わりながら活動できるようにする。(友達や兄弟グループとの関係・教職員と関係・地域や小学校との関係)

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・幼児の遊ぶ姿の変容・週案の反省、園内研究の記録、毎月の子どもの姿・事例検討
- ・アンケート項目「自分から遊びを見つけて元気に遊んでいる」「先生はメリハリのある保育をしている」「登園を楽しみにしている」
- ・アンケート項目  
「先生や友達と関わろうとしている」「自分の思いを話そうとしている」「子どもは相手を意識したり思いやったりする方向に発達していっている」

中間評価

各種指標結果

ほとんどの評価項目においても「そう思う」「だいたいそう思う」の回答が合わせて100%であった。幼稚園・教職員の様子の「幼稚園の保育・教育について安心している」「教職員は明るい笑顔で保育したり、子どもに関わったりしている」「先生は子どもにメリハリのある保育をしている」「先生は子どもの話をよく聞いてくれる」「先生は保護者の話をよく聞いてくれる」の項目では全て「そう思う」の回答が100%であった。子どもの様子の「まわりの人にあいさつができる」と「まわりの人にあいさつができない」においては「そう思う」「だいたいそう思う」の回答が82%と一番低い回答となっている。

自己評価	分析 (成果と課題)
	少人数園ということもあり、一人一人の子どもたちを全教職員がしっかりと理解した上で関わり、必要な場面でその子に応じた支援を行いながら保育を進めることができていると考える。また、保護者対応も一人一人丁寧に行うことができ、保護者と園がしっかりと連携を図れているのだと考える。挨拶に関しては、毎朝、門で登園してくる子どもたちを出迎え、挨拶を交わしているが、自転車登園が多く、駐輪場まで自転車に乗っているため、挨拶をする機会やタイミングを失っている姿が見られる。
	分析を踏まえた取組の改善
	まずは、登園時に挨拶をする意識を子どもにも、保護者にもつけていくために、「挨拶週間」のような日を設けてみたいと考えている。自転車から降りて、ここで挨拶をするという気持ちがでてくることで、少しずつ意識が芽生えてくるのではないかと考える。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
	指標の変更は行わないが、「まわりの人にあいさつができる」と「まわりの人にあいさつができない」の項目に関しては、子どもだけではなく大人の意識を高めていくように取組を考えていきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な経験や体験活動が、子どもたちの育ちや学びにつながっていると感じる。</li> <li>・挨拶の項目に関して改善していくには。まずは家庭から意識を変えていく必要があるのではないか。保護者啓発から進めてみてはどうか。</li> </ul>

## 最終評価

<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <p>「登園を楽しみにしている」「自分から遊びを見つけて、元気よく遊んでいる」「自分でできることは自分の力でやろうとする」「友達や物などを大切にしようとしている」「自分の思いを話そうとしている」「色々なことに興味を持って聞いたり行動したりする」「子どもは相手を意識したり思いやったりする方向に発達している」の項目に関しては、「そう思う」「だいたいそう思う」の回答が合わせて100%だった。また、「人の話を聞こうとしている」「すごいね、不思議だねなど感動したりしている」の項目に関しては「そう思う」「だいたいそう思う」の回答が合わせて90%以上だった。そして「まわりの人に挨拶ができている」の項目では「そう思う」「だいたいそう思う」の回答が89%。「あまりそう思わない」の回答が11%だった。</p>	
自己評価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>幼稚園の保育に対して、多くの方に理解をしていただき、良い評価をいただいている。子どもたちが、安心・安定を土台に園生活を送り、心をときめかせ、様々なことをひらめきながら夢中になつて遊ぶ姿から多くのことを学んでいることを感じ取つていただいているのだと思える。挨拶の項目は、毎回評価が低いため、保護者を巻き込みながら園全体で意識改革を進めていく必要がある。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>「挨拶週間」を設け、登降園時に親子で意識して挨拶を交わす週を設けていくことで、自然に挨拶をする習慣が生まれるように働きかけていく。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>子どもたちは、挨拶できる力をどの子ももっているはずである。保護者自身が様々な場面で挨拶をしているかどうかが問題である。保護者自身の意識改革を進めていくことが大切であると考える。</p>

## (2) 架け橋期の教育の充実に向けた幼保小連携・接続に関して

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・翔鸞小学校1年生と年長児で、教育課程に沿って年間を通して幼小交流を実施する。(管理職、担任同士で連携を密にとる)</li><li>・翔鸞小学校で毎週火曜日に行われるロング昼休みを活用して、小学校の校庭を園児が自由に使わせていただしたり、幼稚園の園庭を自由に1～6年生の小学生が使って遊んだりする中で、自然に幼児と小学生が関りをもてる場面を設けていく。</li><li>・1年生担任と幼稚園が連携を取り、スタート期に幼稚園の担任が朝休みの時間に出前保育に行き、子ども達との交流を図る。5月中頃に幼稚園と小学校1年生の担任、教務主任とで意見交流を行う。この取組を整理して幼小合同研修を行うことで、幼児期の子ども達の育ちや就学後の子ども達の姿や育ち、教師の指導について共有し、それぞれの学校・園での指導に生かす。</li><li>・幼稚園が1週間公開保育を行い、好きな時間帯に保育を見に来ていただく日を設ける。</li></ul>	
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"><li>・年間計画の作成および定期的な小学校との打ち合わせ</li></ul>

- ・スタート期に幼稚園の教員が1年生の教室に出向き、出前保育を行う。
- ・小学校や保育園からの幼稚園の研究保育への参加
- ・授業参観などの学校行事への参加
- ・スタートカリキュラムにかかわる夏季幼小合同研修会の実施（夏季休業中）
- ・アンケート項目「幼稚園は小学校とよく関わっていると思う」「小学校との連携が子どもの育ちにつながっていると思う」

## 中間評価

### 各種指標結果

・架け橋プログラムについての取り組みが昨年度から行われているということが保護者にも周知されていることで、「小学校との交流・連携は子どもの育ちにつながっている」の項目で「そう思う」「だいたいそう思う」の回答が合わせて100%であり、良い評価を得ている。また、幼稚園と小学校がこのような取り組みをしているということで、保護者には安心感と期待感があるようだ。

・年間計画の作成は教務主任の先生を窓口にして、小学校1年生の担任を交えて行うことができた。小学校のロング昼休みの時には、1年生担任と子どもたちが自由に園庭で遊ぶこともあり、昨年度以上に自由な雰囲気で交流活動を図ることができ、教員同士の関係も深めることができた。また、夏季休業中に幼小合同研修会を行い、5歳児の苗屋さんの活動と小学生との交流活動の中で見られた子どもたちの姿より、小学校の教務主任の先生が事例を通して人権教育と関連した子どもたちの育ちについて、我々教員が学ぶことができた。

自己評価	分析（成果と課題）
	公開保育や、出前保育、幼小合同研修会を行ったことで、架け橋期の子ども達の育ちについて幼保小の教員間で共通理解を図ることができた。また、架け橋で行っていることを保護者にも伝えていくことで、安心感と期待感が高まっていた。
	分析を踏まえた取組の改善
	今年度は、年間で幼小の保育、授業を公開し、参観させていただく機会が多くあるが、小学校の授業に関しては事後協議に参加する機会があまりないため（フォームズでのアンケート回答）、協議を開催される際には参加し、架け橋期における理解を深めていきたい。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標
	指標の変更は行わないが、今年度も安心した気持ちで就学前検診を迎えるように、2学期中旬に5歳児と5年生が3回定期的に交流をする予定になっている。その交流の結果、互いの子どもたちにとってどのような育ちや、個々の安心感につながっているのかを検証していきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き翔鷺小学校との連携接続を子どもたちのために進めていってほしい。</li> <li>・1年生に就学していく子どもたちが、安心した気持ちで学校生活を送れるように、ぜひ架け橋プログラムを引き続き行っていってほしい。</li> </ul>

## 最終評価

### （中間評価時に設定した）各種指標結果

「小学校との交流・連携は、子どもの育ちにつながっている」の項目では「そう思う」の回答が100%であった。

自己評価	<b>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</b>
	架け橋期の教育の充実に向けた幼保小連携・接続に関して、皆さんから高評価をいただいた。コロナ禍で、全くくなってしまった幼保小の連携・接続が今年度から復活したことが評価につながっていると考える。次年度は子ども同士の連携だけではなく、教員同士の連携・接続が互いの子どもたちの育ちにつながっていくようにしていきたい。
学校関係者評価	<b>分析を踏まえた取組の改善</b> 翔鸞小学校や北野保育園（柏野小学校が連携・接続していた園）との連携・接続をさらに充実させ、架け橋プログラムの作成に向けて取り組んでいきたいと考えている。

### （3）預かり保育について

	<b>具体的な取組</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長時間生活する預かり保育が、利用する子どもたちにとって安心して過ごせる場所になるように環境を整える。</li> <li>・保護者にとって、安心して仕事ができるための預かり保育になるように安全に配慮して保育を行う。</li> <li>・地域の方や大学生と連携をして、取組ができるように企画・調整していく。</li> </ul>
	<b>（取組結果を検証する）各種指標</b>

- ・アンケート項目「預かり保育を安心して活用している。」「子どもは、預かり保育で楽しく過ごしている。」
- ・地域の方や大学生との関わりを通して、どのような企画を立てることができたか。

### 中間評価

自己評価	<b>各種指標結果</b>
	預かり保育のアンケート項目の結果は「そう思う」「だいだいそう思う」が100%であり、子どもも保護者も安心した気持ちで利用してくださっていることが分かった。
	<b>分析（成果と課題）</b>
	異年齢の子どもたちが、預かり保育担当の先生と一緒にアットホームな雰囲気の中、安心した気持ちで過ごしていることが、保護者の安心感にもつながっていると考える。迎えに来られる時間はバラバラだが、個々に丁寧にその日の様子を伝えていくことを心がけていきたい。
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b>
	担任が部分休務を取得している日もあるため、預かり保育を利用している保護者の方と出会えず、その日の子どもの様子を伝えにくい日もあった。伝達事項を漏れなく保護者に伝えられるように各教員間で連携をとれるようにしていく。
	<b>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</b>
	指標は変更しないが、預かり保育の充実に向けて、より一層の工夫と、安心して遊びこめる環

	境づくり、地域にいらっしゃる方をゲストティーチャーとして招き、イベント等を預かり保育の活動の中に入れていく。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人材を活かしながら、ゲストティーチャーとして迎え入れ、預かり保育が充実していくように活動内容を考えていくのは良い方法だと考える。昨今は、共働きの家庭が増えているので預かり保育が充実していくことは大切である。</li> </ul>

#### 最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
	<p>指標に掲げている二つの項目「預かり保育を安心して活用している」「子どもは、預かり保育で楽しく過ごしている」全て100%の方が「そう思う」という回答をしてくださっている。多い時には8割の子どもたちが預かり保育を利用している。今年度は、預かり保育でイベント（リズムジャンプ、シャボン玉、書道で遊ぼう、新春空手道場）を行ったことや、満3歳児の預かり保育を利用する子どももいたことで、利用人数も増える傾向にあった。異年齢の子どもたち同士が関りを持ちながら安定した様子で預かり保育を利用する姿が日々見られた。</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>預かり保育に対しては全員が安心、且つ楽しんで利用しているという結果だった。預かり保育をしている中でトラブルになる時もあるが、その都度、預かり保育担当教員と担任が連携を図りながら丁寧に関わり、保護者にも話をしているので安心につながっていると考える。次年度は、4月当初から新2号認定の3歳児の預かり保育が多数利用される予定なので、人員配置を考えて、引き続き安心、且つ楽しい預かり保育が行えるようにしていきたいと考える。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>子どもたち自身が安心して預かり保育で利用できるように、人員配置を考えていきたい。特に3歳児が安定するまでは人員を増やして預かり保育を運営していきたい。また、イベントも取り入れながら、普段、あまり預かり保育を利用しない子どもたちも、利用できるきっかけをつくっていきたいと考えている。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>両親ともに働く方が多いため、預かり保育を必須だと考える。しかし、「働いていたら保育園」という考えも多いと思うため、「幼稚園でも早朝8時から、そして夕方18時まで預かっていることや、長期休業中も利用できること」をもっと発信していく必要がある。</p>

#### （4）子育ての支援について

	具体的な取組
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週3回の未就園児対象の教育相談（たんぽぽ組）や満3歳児子育て支援クラス（いちご組・9月からは16時までの預かり保育開始）、園庭開放を継続して行う。</li> <li>・毎月の教育相談や園庭開放の予定をホームページやInstagramに載せるだけでなく、お便りにして、児童館や図書館、小規模保育施設などに配布して情報発信を行う。</li> <li>・PTAが主体となって「子育て語り合いサロン」を企画し、情報を発信する。</li> <li>・子育てが困難とみられる保護者に対して支援する体制を作り、その困りの解決に向けて、専門機</li> </ul>

関を紹介し、幼稚園と共有していく。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・教育相談回数及び参加人数、参加者の声
- ・未就園児担当の子育てボランティアの方と管理職が週に一度、未就園児について話し合ったり、イベントの開催内容について考えたりする。

中間評価

各種指標結果

教育相談（未就園児クラス「たんぽぽ組」）は毎週3回実施し、多くの方に利用していただき、親子でゆっくり楽しい時間を過ごす姿が見られた。また、子育て語り合いサロンには在園児と未就園児保護者も共に参加し、子育てについての様々な悩みを出し合いながらざくばらんに話すことができたので高評価を得ている。満三歳児預かり保育「いちご組」を開設し、現在6名の子どもが利用し、保護者からも高評価を得ている。

支援の必要な子どもに対しては、園と保護者と関係機関が子どもの困りや支援について共有できているので、個々の支援につなげることができ、保護者の安心感にもつながっている。

自己評価

分析（成果と課題）

子育て語り合いサロンを実施した際に、在園児保護者も参加してくださり、子育てについての様々な悩みや、幼稚園での生活について知りたいことを具体的に話し合える場となったことは成果であると考える。支援の必要な園児については、保護者と連携して関係機関につないでいる。ただし、0・1・2歳児の保護者に関しては、保護者の思いを丁寧に受け止め、必要に応じて関係機関を紹介していくことが大切なので専門的な知識を知っておくことも必要である。

分析を踏まえた取組の改善

満3歳児の子育て支援・預かり保育クラスの利用者も月を追うごとに増えてきているため、未就園の施設などと連携したり、研修等を活用して乳児の発達についても知識理解を深めたりしていく。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

指標の変更は行わないが、子育て支援の取組を継続し、保護者の支援をしっかりと行っていく。また、支援の必要な子どもに対する子育ての不安などは、しっかりと話を聞き、まずは保護者の思いを受け止めていく。必要があれば専門機関につながっていけるようにサポートしていく。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・子育て世代の方々が翔鸞幼稚園で子育て支援を受けたいと思えるような発信ができている。(HPやInstagram等)
- ・未就園児親子クラス（たんぽぽ組）での様々な取り組みが、子育て支援につながっている。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

「先生は、保護者の話をよく聞いてくれる」の項目では「そう思う」が100%。「保護者として、子どものことを先生や職員によく話したり相談したりする」の項目では「そう思う」「だたいそう思う」の回答が合わせて100%だった。子育て支援（「未就園児親子クラス たんぽぽ組」「満3歳児子育

て支援クラス「いちご組」には、多くの親子や満3歳児が利用され、高評価を得ている。たんぽぽ組では「子どもの発達を促す体遊び」を講師を招いて月に1回、イベントとして行っていることで、興味をもって参加する親子が増えてきた。

自己評価	<b>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</b>
	<p>不安を抱えながら子育てをしている保護者に対して、いつでも話を聞き、悩みを共有していくことで少しづつ安心していく姿も見られた。次年度は、3歳児クラスは長安長女が多いため、初めての子育てに対して様々なことに不安を感じる保護者が多いと予想している。一人一人の保護者の思いに寄り添いながら子育て支援ができるように関わっていきたい。また、たんぽぽ組は親子で参加していただきながら、同じ子育てをしている保護者同士がつながり、子育てを楽しむヒントを得る場になっていた。いちご組は、保護者自身にゆとりの時間ができたり、プレ入園的に利用されたりすることで、保護者自身が子どもの育ちに気付く姿が見られた。次年度は、未就園児の利用者数が減ることが予測されるため、本園で子育て支援をしていることを周知していくように外部発信していきたい。</p>
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b>
	<p>たんぽぽ組・いちご組での取り組み内容をHP、インスタグラム、チラシ、ポスター等で発信したり、近隣の未就園児施設や子育て支援施設等に出向き、本園での取り組みを丁寧に知らせてていきたい。また、次年度はキンダーカウンセラーも年8回来園してくださるため、園内で周知し、活用していきたいと考えている。</p>
学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b>

## （5）地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）について

	<b>具体的な取組</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人々との交流を主とした活動を取り入れて年間指導計画を作成する。</li> <li>・地域の方々の意見を聞き、その意向を反映した取組を計画する。</li> </ul>
	<b>（取組結果を検証する）各種指標</b>

中間評価

自己評価	<b>各種指標結果</b>
	<p>「苗屋さん」や「PTA夏祭り」に地域の方に来ていただき、子どもたちと触れ合っていただけたことや、地域の様々な行事にも参加することができ、高評価を得ている。</p>
	<b>分析（成果と課題）</b>

校運営協議会会長や委員の方、また、小学校の校長とはほぼ毎朝話をし、小学校と幼稚園の情報を共有している。また、幼稚園の行事に地域の方も一緒に参加していただけたことで、子ども達にとっても保護者にとっても温かいつながりの生まれた取組となった。地域の方の高齢化が進

	<p>んでいるため、次の担い手を探していくことも必要である。</p> <p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <p>働き方改革も意識しながら、地域の方と連携した行事について取り組んでいく。PTA 夏祭りに関しては、異常に暑い時期なので、開催時期を検討していく必要がある。また、新たな地域の担い手を探していくことも必要である。</p> <p><b>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</b></p> <p>今後も、子ども達の育ちにつながっていくように地域との連携内容を考えていく。</p>
学校 関 係 者 評 価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域としても来年度、翔鸞小学校と柏野小学校が統合するに当たって、様々な行事を見直し、柏野地域の子どもたちとも一緒にできる活動を考えていきたい。</li> </ul>

#### 最終評価

	<p><b>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</b></p> <p>「幼稚園は地域の方と行事や取組でよく関わっていると思う」の項目では「そう思う」の回答が 100% だった。また、「子どもは、幼稚園の取組を通して、地域や地域の人に親しみをもっている」の項目では「そう思う」「だいたいそう思う」の回答が合わせて 90% だった。地域の方がとても協力的で、子どもたちも保護者も地域とつながりを持てるに、とても感謝している。特に夏祭りの際には、子どもも大人も地域の方も一緒に楽しめる活動内容となった。今後も地域とのつながりを大切にしながら、取り組み内容を一緒に考えていきたい。</p>
自己 評 価	<p><b>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</b></p> <p>今年度は地域の行事も通常通りに全て開催することができ、子どもも保護者もとても満足していた。次年度は、新 2 号認定の新入園児の子どもたちが多く入園するため、子どもだけではなく、親子で無理なく楽しめる夏祭りの活動内容を考えていきたい。</p> <p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <p>次年度の地域の方と一緒に開催する夏祭りの時期や時間帯、内容等を早い時期から PTA と打合せをして、働いている保護者の方も子どもと一緒に無理なく、楽しめるものにしていきたいと考えている。</p>
学校 関 係 者 評 価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <p>自分たちにできることは、何でも遠慮なく言ってほしい。子どもたちのためであれば、可能な限り力になりたいと考えている。</p>

#### (6) 教職員の働き方改革について

	<p><b>重点目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員一人一人が勤務時間を意識し、保育終了後の時間を計画的に、有効に使い、教材研究や事務処理を行う</li> </ul> <p><b>具体的な取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週水曜日は「ノー残業デイ」に位置づけ、定時に帰宅するように努める。</li> </ul>
--	--

- ・電話応対時刻を午後6時までとする。
- ・帰宅を促し、午後7時頃施錠できるように努力する。
- ・年休や割振り、回復が取れるように長期休業中の取組を精選する。
- ・校務支援員と連携を図りながら、教頭や担任の仕事の一部を補助してもらいやすいよう計画する。

(取組結果を検証する) 各種指標

超時間勤務の時間数

- ・年休の取得状況（年休を5日はとる）

中間評価

各種指標結果

- ・超過勤務時間は、3名が45時間を超えている。
- ・年休は、ほぼ予定通りの消化できている。
- ・次の日の保育や行事の準備、園内研究についての話し合い等で勤務時間を超えてしまっている。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・校務支援員は担任の負担軽減になっている。
- ・園長と担任をもっている教頭、園内研究主任の勤務時間が長い。

分析を踏まえた取組の改善

- ・「今日、絶対にやっておかなくてはいけないこと」を考え、各教員自身が優先順位を考えながら仕事を進めていくことを意識していく。
- ・「終わりの時間」を決めておくことで、意識を高めていく。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・超過勤務の時間と内容

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・幼稚園も遅い時間まで職員室の電気がついている日がある。働き方改革を進めるのは当然のこと。教職員も健康で、余裕をもって、ゆったりした気持ちで園児と関わってほしい。地域として協力や支援はやっていきたいので、遠慮なく声をかけてほしい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

超過勤務に関しては月45時間以上の勤務者が4名中3名。年休は、ほぼ予定通りに消化している。職朝を週に1回だけにしたことで、担任の先生方はゆとりをもって保育の準備をすすめることができていたが、行事前や研究発表会前などは超過勤務になってしまうことが多かった。

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

超過勤務になってしまう時の仕事内容を確認すると、その日のうちにしなくてはいけないこと以外に、今、取り組まなくても良い内容も含まれていることがある。仕事の段取りを自分自身でしっかりと把握し、見通しをもって仕事を取り組んでいくことも必要であると考える。

分析を踏まえた取組の改善

個々の教員が週案をたてる際に、「今日、絶対にしなくてはいけないこと」を把握し、日々、見通しと優先順位をつけて仕事をすすめていくことを意識していきたい。

学校関係者による意見・支援策

時々、遅い時間まで職員室に電気がついている時がある。女性の職場なので、心配もしている。  
地域でできることは地域で取り組んでいくので、遠慮なく相談してほしい。